

平成 23 年度 経営診断からみた畜産経営の現況 正誤表

(肉用牛編)

| 正   | 誤  |
|---|--|
| P 1 2 の ( 1 ) のアの<br>肥育牛 1 頭当り所得は 33,888 円と前年の<br>26,883 円よりも増加した。  | P 1 2 の ( 1 ) のアの<br>肥育牛 1 頭当り所得は 33,888 千円と前年<br>の 26,883 千円よりも増加した。  |
| P 2 ( 2 ) のアの<br>肥育牛 1 頭当り所得は 47,548 円と前年の<br>25,566 円よりも増加した。  | P 2 ( 2 ) のアの<br>肥育牛 1 頭当り所得は 47,548 千円と前年<br>の 25,566 千円よりも増加した。  |
| P 2 ( 3 ) 黒毛和種繁殖<br>ア 収益性<br>繁殖牛 1 頭当り所得は 23,960 円と<br>前年の 41,979 円よりも減少した。要因は、<br>繁殖牛 1 頭当り肉用牛収益が 321,834 円<br>(前年 328,963 円)と変化はなかったが、<br>差引生産費用が 379,381 円(前年 351,300<br>円)と増加したことによる。 | P 2 ( 2 ) 黒毛和種繁殖<br>ア 収益性<br>繁殖牛 1 頭当り所得は 23,960 千円<br>と前年の 41,979 千円よりも減少した。要<br>因は、繁殖牛 1 頭当り肉用牛収益が<br>321,834 千円(前年 328,963 円)と変化は<br>なかったが、差引生産費用が 379,381 円<br>(前年 351,300 円)と増加したことによる。 |
| P 3 ウの<br>資産及び負債がともに減少したが資産の<br>減少が大きかったので、資本は 51,574 円<br>減少し、期末の資本合計額は繁殖牛 1 頭当<br>り 335,096 円であった。  | P 3 ウの<br>資産及び負債がともに減少したが資産の<br>減少が大きかったので、資本は 51,574 円<br>減少し、期末の資本合計額は繁殖牛 1 頭当<br>り 335,096 千円であった。  |
| P 9 図 1 5 所得上位のプラス要因<br>【技術】<br>2 枝肉 1kg 当り価格が高い<br>1,752 円(所得下位 1,646 円)   | P 9 図 1 5 所得上位のプラス要因<br>【技術】<br>2 枝肉 1kg 当り価格が高い<br>1,752 円(所得下位 1,646kg)  |
| P 1 5 生産費用<br>所得上位の特徴として肥育牛 1 頭当り<br>購入飼料費(当期)に大きな差は見られな<br>かったが、販売牛分の素畜費が高く、差引<br>生産費用が肥育牛 1 頭当り 483,547 円と<br>所得下位より 89,725 円高い。  | P 1 5 生産費用<br>所得上位の特徴として肥育牛 1 頭当り<br>購入飼料費(当期)に大きな差は見られな<br>かったが、販売牛分の素畜費が高く、差引<br>生産費用が肥育牛 1 頭当り 483,547 円と<br>所得下位より 89,725 千円高い。  |
| P 1 5 図 2 8 めす肥育経営の所得上位<br>平均と所得下位平均の比較<br>【技術】<br>2 出荷体重<br>661.2kg(所得下位 660.2kg)  | P 1 5 図 2 8 めす肥育経営の所得上位<br>平均と所得下位平均の比較<br>【技術】<br>2 出荷体重<br>661.2kg(所得下位 660.2g)  |

(酪農編)

| 正                                | 誤                                 |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| P 4 図 - 3 経産牛 1 頭当り所得額<br>所得額(円) | P 4 図 - 3 経産牛 1 頭当り所得額<br>所得額(千円) |